

経営比較分析表（平成30年度決算）

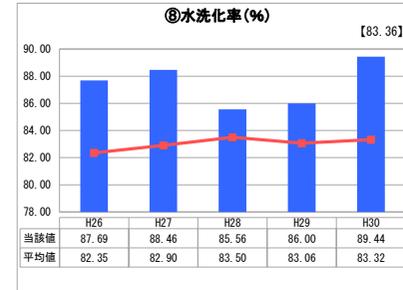
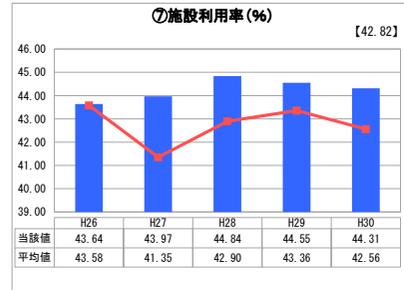
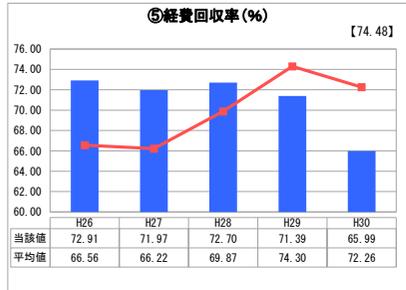
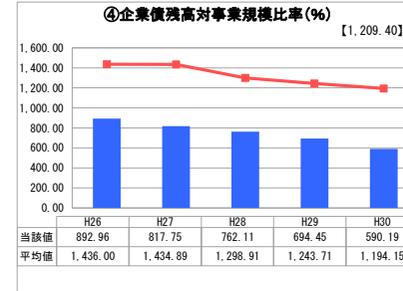
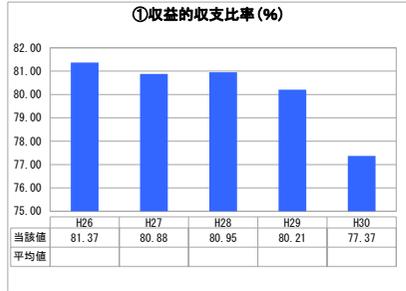
岐阜県 中津川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	25.84	85.56	3,672

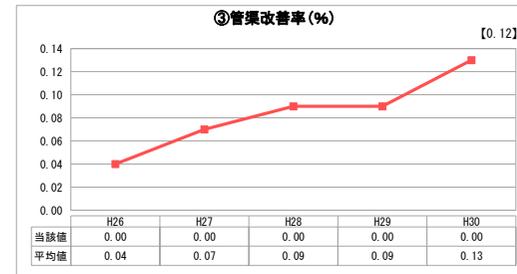
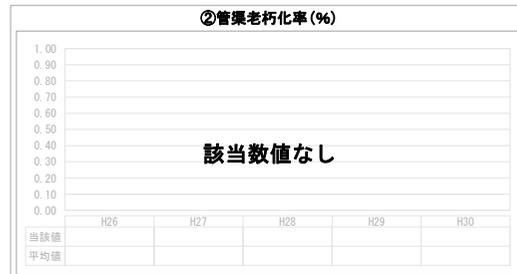
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
78,950	676.45	116.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
20,278	6.30	3,218.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●収益的収支比率、企業債残高対事業規模比率
 総収益は5年連続で増加したものの、R2の地方公営企業法適用（以下「法適化」という。）に向けた準備に係る費用が増加したことで、収益的収支比率は低下しました。
 『企業債残高対事業規模比率』については、順調に減少しております。
 ●経費回収率
 料金収入は右肩上がり推移していますが、法適化関連費用の増加により、大幅に低下しました。この費用を除いて試算すると経費回収率は78.59となり、下水道使用料の定額制廃止の影響により実質的には大幅に改善しています。
 ●汚水処理原価
 中山間地域で地理的要因により処理施設が多く点在しており維持管理費が高いため、類似団体平均値を上回っています。経費回収率と同様の理由でH30は大幅に高くなっていますが、法適化関連費用を除いて試算すると257.58円となり、実質的には前年度と比較し、低下しています。
 ●施設利用率
 当市を訪れる観光客が増加傾向にあるため施設利用率も増加傾向です。H30は年間有収水量は増加したものの晴天時一日平均処理水量が低下したため減少しました。
 ●水洗化率
 H30は水洗便所設置済人口が増えたため上昇しましたが、今後は人口減少により水洗化率が上昇するという傾向が予想されます。

2. 老朽化の状況について

7処理区の供用開始がH9からH15の間であり管渠の更新時期はまだ到来していませんが、老朽化率の上昇に備えて、ストックマネジメントによる計画的な更新を図ります。

全体総括

当市の人口は今後も減少が予想されており、処理区の中でリニア開業に関連する地域が少ないことから有収水量は伸び悩むと考えられます。また、一般会計繰入金については地方交付税が減額されていく中で必要とする繰入額が確保できない可能性を排除できず、長期的に経営状況は徐々に厳しくなっていくと考えられます。当面は官民連携などにより経費削減に努めるとともに、R2の地方公営企業法適用に向けて準備を進め、適正な受益者負担を検討しつつ、将来の設備更新にも備えた持続可能な下水道経営の確立を目指し、経営改善に努めます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。